

第2期しまねの 学力育成推進プラン

実行期間：令和7年度～令和11年度

しまね教育振興ビジョン

基本目標

すべての子どもが学びの主人公
[一人ひとりを尊重する学校]

実体験に根ざした本物の教育
[地域とともにある学校]

挑戦心、探究心が育つ学びの環境
[子どもも大人も学び成長する学校]

育てたい資質・能力

学びの土台をなす人間力

学びの中核をなす学力

【推進の柱】

子どもが「できた・わかった・やってみたい」
を実感できる授業づくりの推進

学びを展開する社会力



第2期しまねの学力育成推進プラン

はじめに

「しまね教育振興ビジョン」(以下「振興ビジョン」という)では、近年、学校教育に求められるものが複雑化、多様化している現状から、より具体的で、実情に即した「3つの基本目標」を掲げています。

この「第2期しまねの学力育成推進プラン」(以下「プラン」という)は、振興ビジョンに示す「育てたい資質・能力」のうち、「学びの中核をなす学力」の育成に関わる取組を具体的に推進することを目的として策定しました。

プランの柱は「授業づくり」です。

年間1,000時間を超える授業は学校教育の中核であり、児童生徒の最大の自己実現の場です。学習指導要領の趣旨を踏まえ、日々の授業の質を高め、児童生徒の「できた・わかった・やってみたい」を実感できる授業づくりが本プランの目指すところです。

また、「めざす授業像」を、5つの目標で具体化しています。

- 目標1 基礎学力を育成する授業づくりの推進
- 目標2 学習習慣の基盤を育む授業づくりの推進
- 目標3 幼小中高の学びをつなぐ保育・授業づくりの推進
- 目標4 ICTを効果的に活用した授業づくりの推進
- 目標5 多様な子どもの主体的な学びを支える授業づくりの推進

本プランは、未来を生きる児童生徒に求められる資質・能力を育むための授業像です。本プランの推進においては、県教育委員会と市町村教育委員会が協働し、学校・家庭・地域との連携を図りながら取り組んでいきます。

資質・能力1

資質・能力
の具体
段階的育成イメージ

学びの土台をなす人間力

資質・能力2

学びの
中核をなす学力

資質・能力3

学びを展開する社会力

自立した学びの力
～一生を通して学ぶ力～

学ぶ意欲

0歳

基礎学力

(学びを組み立てる)

思考・判断・表現

問いを立てる
(情報の収集・蓄積・読解・分析)
自分らしい表現・発信

学び方の開発

(自分らしい課題の探究)

18歳

第2期 しまねの学力育成推進プラン

子どもが「できた・わかった・やってみたい」を実感できる授業づくり

目標	めざす授業像	推進項目	関連する教育センター研修 (1は令和7年度研修番号)
目標1 基礎学力を育成する 授業づくりの推進	次学年以降の学習や実生活において必要とされる基礎学力や、学びを組み立てる力を全ての児童生徒が確実に身に付けられる授業	「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善 - めあてと振り返りを大切にした授業の推進 - 学習する意義や必要性などを実感できる場面の設定 - 全国学力・学習状況調査結果を踏まえた授業改善と改善状況の検証	目標1・目標2とのかかわり 教科等の「能力開発研修」29講座 (1326) 学びの根っこをぐんぐん伸ばすプロジェクト「学びの基礎」に関する調査・研修 (1266) 教育課程デザイン研修 (1236) 学校図書館を活用した授業改善講座 (1131) 講師等対象授業づくり研修 (5002) 若手教員授業力向上セミナー (1176) 複式学級新任担当者研修 (1293) 中学校数理科教員リーダー研修 (1315) 共通教科情報「情報Ⅰ」「情報Ⅱ」研修 他
目標2 学習習慣の基盤を育む 授業づくりの推進	生涯にわたって学習するうえでの基盤となる、問いを立てる力、情報を収集・蓄積・読解・分析する力、自分らしく表現する力を育む授業	- 問題発見・解決能力を育む授業の推進 - 授業の学びと家庭学習をつなぐ工夫	目標3とのかかわり (1202) 幼児教育推進研修 (751) 小・中学校「総合的な学習の時間」講座 (1229) 高等学校探究学習担当者研修 他
目標3 幼小中高の学びをつなぐ 保育・授業づくりの推進	子どもたちが自ら問いを立て、答えを探す楽しさを味わう経験の積み重ねを通して、自分のよさや可能性を感じるとともに、学びへの意欲や粘り強さ、探究心をのばす保育・授業	- 子どもたちが、探究の過程を通して自ら学びを深めていくこととする力を育てる授業づくり - それぞれの学校種間での学びの連続性・発展性をふまえ、学びの積み重ねを意識した授業づくり	目標4とのかかわり (1287) クラウドの強みを生かした授業デザイン講座 (1291) 授業で育み活かす「子どもの情報活用能力」育成講座 (1289) AI時代の教育情報セキュリティ講座 (1332) 校内の情報化を進めたい教員のためのICT活用推進実践講座 (1268) ICT活用推進リーダー研修 他
目標4 ICTを効果的に活用した 授業づくりの推進	児童生徒が一人一台端末等を日常的に活用して、主体的に学習を調整することにより、情報手段を適切に学びに生かし、よりよい学び方を自ら追求する力を育成する授業	- 児童生徒が一人一台端末等を学ぶに生かすことのできる授業づくり - 教職員のICT活用指導力の向上	目標5とのかかわり (1335) 通常の学級における多様な学びを支える基礎講座 (1334) 発達障がいのある子どもの理解と特別支援学級の授業づくり講座 (1338) 学びが変わる！ 知能障がいのある子どもとの理解と授業づくり講座 (1336) 明日からの支援に生かす「特別支援学級・通級」による指導担当のための実践講座 他
目標5 多様な子どもの主体的な学びを 支える授業づくりの推進	集団における授業の工夫や合理的配慮の提供により、多様な学習の状況や興味・関心に柔軟に応じた、全ての子どもにとってわかりやすく楽しい授業	- ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり - 一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導の工夫	

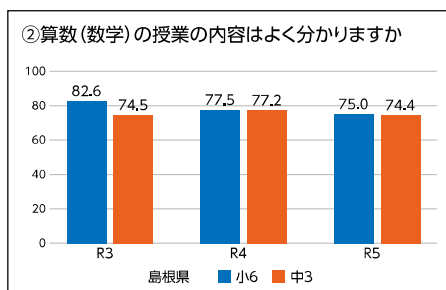
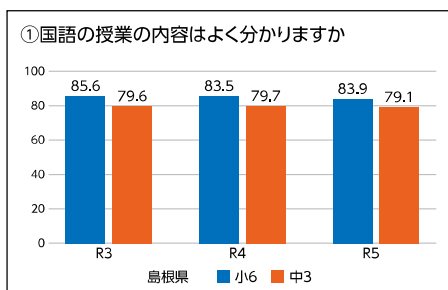
基礎学力を育成する授業づくりの推進

① めざす授業像

次学年以降の学習や実生活において必要とされる基礎学力や、学びを組み立てる力を全ての児童生徒が確実に身に付けられる授業

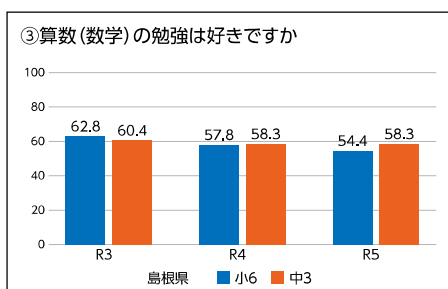


② 現状と課題



グラフ①②は、全国学力・学習状況調査(R6)の質問に対して肯定的な回答をしている本県の児童生徒の割合です。一方で、約5分の1の児童生徒が否定的な回答をしていることが課題です。

国際学力調査(TIMSS)にお



いて、「算数・数学の勉強は楽しい」や「数学を勉強すると日常生活に役立つ」といった質問の肯定的な回答と平均得点の高さには、正の相関関係が見られます。グラフ③は、全国学力・学習状況調査の質問に対して肯定的な回答をしている本県の児童生徒の割合です。今後とも、児童生徒が「好きだ」「楽しい」「日常生活に役立つ」を実感できる授業づくりが課題です。

③ めざす児童生徒像

- ・ 既習内容を着実に身に付け、それをもとに新しい学習に「できる・わかる」という実感を持って取り組んでいる。
- ・ 学んだことを実生活に結びつけて考えたり、生かしたりしようとしている。
- ・ 個人で学んだことをみんなと共有し、助け合いながら、共に学びを深めている。
- ・ 間違えたところや、理解していないところを分かるまで学習している。

④ 推進項目

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善
- ・ めあてと振り返りを大切にした授業の推進
- ・ 学習する意義や必要性などを実感できる場面の設定
- ・ 全国学力・学習状況調査結果を踏まえた授業改善と改善状況の検証

児童生徒の変容をとらえる視点

- 全国学力・学習状況調査平均正答率の変化(国語、算数・数学)
- 全国学力・学習状況調査 児童生徒質問項目
 - ・国語、算数・数学の授業の内容はよく分かる
 - ・国語、算数・数学の勉強は好きだ
 - ・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている
 - ・授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う

学習習慣の基盤を育む授業づくりの推進

① めざす授業像

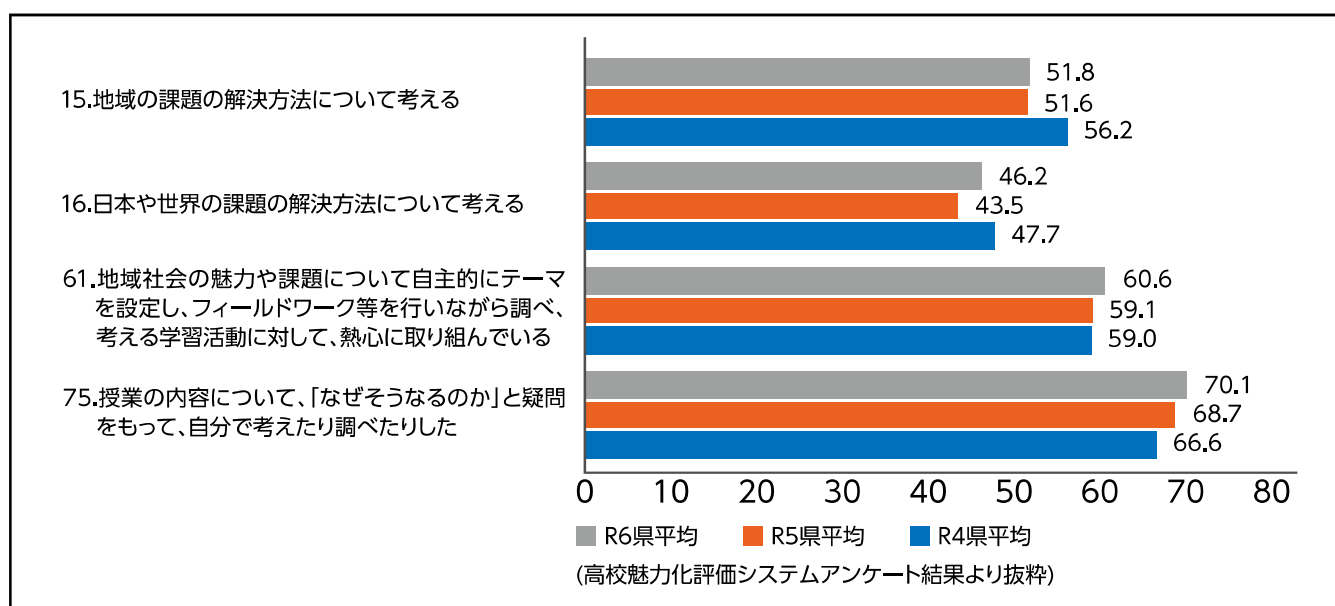
生涯にわたって学習するうえでの基盤となる、問いを立てる力、情報を収集・蓄積・読解・分析する力、自分らしく表現する力を育む授業



② 現状と課題

質問項目15.16.では、自分の住む地域や日本・世界にある課題の解決に向けて考える学習の機会がまだ十分でないことがうかがえます。また、質問項目61.75.では子どもたちが自主的に問題発見・解決に取り組む姿勢が十分でないことがうかがえます。

子どもたちが自ら問いを立て、解決に向けて思考・判断し、自分らしく表現する「学習習慣の基盤」となる力の育成を重視した授業の充実が求められます。



③ めざす児童生徒像

- ・ 各教科等の特質に応じて問いを立て、課題を設定している。
- ・ 解決までの見通しをもち自ら学びを組み立て、意欲的に学んでいる。
- ・ 集めた情報を活用し、自分らしく表現している。

④ 推進項目

- ・ 問題発見・解決能力を育む授業の推進
- ・ 授業の学びと家庭学習をつなぐ工夫

児童生徒の変容をとらえる視点

- 高校魅力化評価システムアンケート結果
(特に15.16.61.75の項目についての変化)
- 全国学力・学習状況調査学校質問結果
(特に17.25.29の項目についての変化)

幼小中高の学びをつなぐ保育・授業づくりの推進

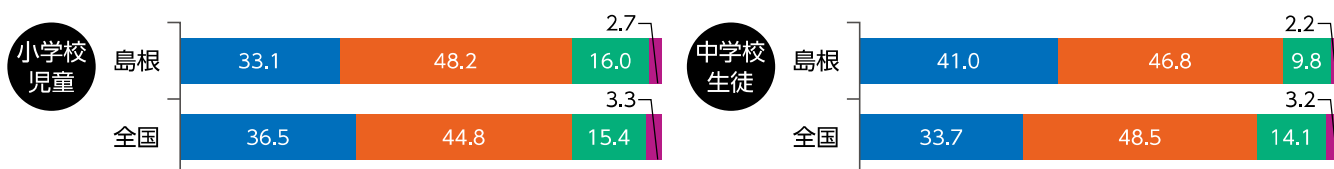
① めざす授業像

子どもたちが自ら問いを立て、答えを探す楽しさを味わう経験の積み重ねを通して、自分のよさや可能性を感じるとともに、学びへの意欲や粘り強さ、探究心をのばす保育・授業

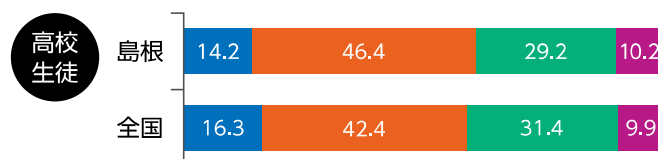


② 現状と課題

Q.総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。(全国学力・学習状況調査(R6)より)



Q.地域社会の魅力や課題について、自主的にテーマを設定し、フィールドワーク等を行いながら調べ、考える学習活動に対して、熱心に取り組んでいる。
(高校魅力化評価システムアンケート結果 R6より)



■ よくしている ■ どちらかといえば、している ■ あまりしていない ■ 全くしていない

総合的な学習の時間や総合的な探究の時間(課題研究等による代替を含む)について、各校での授業改善が、児童生徒の探究の過程をふまえた学びにつながっています。今後も探究の過程を経た学びのよさを、子どもたち自身が実感できる授業づくりの推進が必要です。

③ めざす児童生徒像

- 子どもたちが主体的に「なぜ?どうして?」という問いを立て、探究の過程の中で考えを広げたり深めたりしている。
- 授業で学んだことを生かしながら地域社会や自分の生活のなかの課題の解決に粘り強く取り組むなかで、自分のよさや可能性、成長を理解している。

④ 推進項目

- 子どもたちが、探究の過程を通して自ら学びを深めていこうとする力を育てる授業づくり
- それぞれの学校種間での学びの連続性・発展性をふまえ、学びの積み重ねを意識した授業づくり

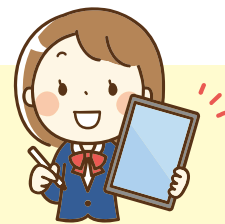
児童生徒の変容をとらえる視点

- 全国学力・学習状況調査 児童生徒質問項目
「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め、整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」
- 高校魅力化評価システムアンケート
「地域社会の魅力や課題について、自主的にテーマを設定し・・・取り組んでいる。」

ICTを効果的に活用した授業づくりの推進

① めざす授業像

児童生徒が一人一台端末等を日常的に活用して、主体的に学習を調整することにより、情報手段を適切に学びに生かし、よりよい学び方を自ら追求する力を育成する授業



② 現状と課題

授業で一人一台端末等を活用している小中学生の割合(図1)は徐々に増えていますが、全国平均より低い状況です。学習における一人一台端末等の活用について「考えを共有したり比べたりしやすい」「考えや意見を分かりやすく伝えることができる」と感じている小中学生の割合(図2)や、「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」と感じている中学生の割合も全国平均より低い状況です。高等学校の授業においても一人一台端末の活用をより一層充実していく必要があります。

子どもたちが情報手段の一つである一人一台端末活用の特性や強みを知り、学習に生かしていくことができるよう、授業で日常的に活用していくことが求められます。

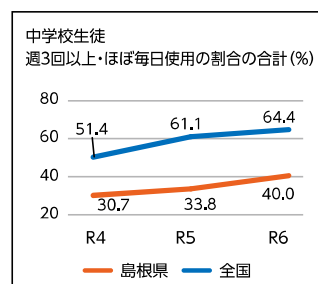
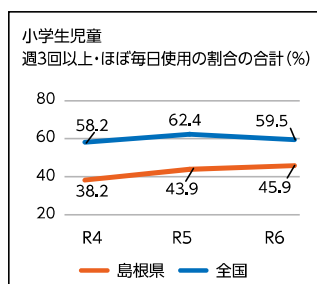


図1 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに受けた授業でPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用したかに対し「週3回以上」「ほぼ毎日」と回答した割合の合計(%) 全国学力・学習状況調査(R6)

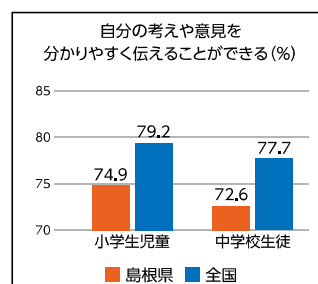
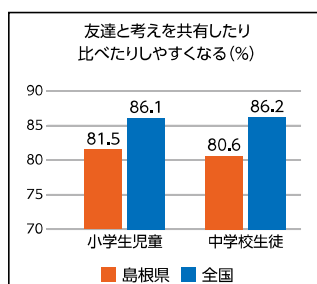


図2 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、どれくらい当てはまるかに対し、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合の合計(%) 全国学力・学習状況調査(R6)

③ めざす児童生徒像

一人一台端末等を授業で日常的に活用し、身に付けた情報活用能力を適切に学びに生かしながら、よりよい学び方を自ら追求している。

- 一人一台端末等を活用して、
- (1) 学習に必要な情報を調べている
 - (2) 考えを共有したり比べたりしている
 - (3) 考えをまとめ、発表・表現している
 - (4) 学習記録を活用しながら、自分のペースや学び方に合わせて学習を進めている
 - (5) 情報活用の土台となる知識や態度を身に付けている

④ 推進項目

- ・ 児童生徒が一人一台端末等を学びに生かすことができる授業づくり
- ・ 教職員のICT活用指導力の向上

児童生徒の変容をとらえる視点

■全国学力・学習状況調査 児童生徒質問項目

- ・ 一人一台端末等の授業での活用
- ・ 自分の考えや意見をわかりやすく伝えることができる
- ・ 自分のペースで理解しながら学習を進めることができる
- ・ 友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる 等

多様な子どもの主体的な学びを支える授業づくりの推進

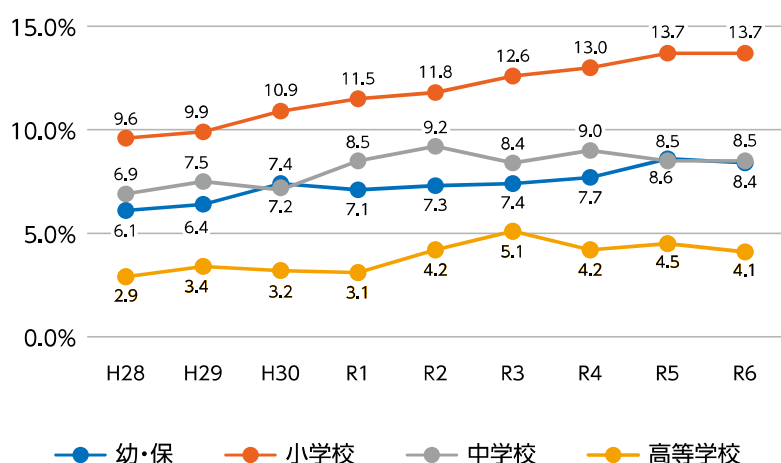
① めざす授業像

集団における授業の工夫や合理的配慮の提供により、多様な学習の状況や興味・関心に柔軟に応じた、全ての子どもにとってわかりやすく楽しい授業



② 現状と課題

通常の学級に在籍する支援の必要な幼児・児童・生徒
(県調査 教員の主観による)



- ・ 通常の学級にも、教育上特別の支援を必要とする子どもが増加しており、実態や支援の多様化が進んでいます。
- ・ 多様な個性が尊重され、安全・安心に学ぶことができる環境の中で、自己決定の場を提供する授業づくりを進める必要があります。
- ・ 「困難さ」に対する「指導上の工夫の意図」を理解し、個に応じた様々な「手立て」を検討し、指導に当たっていく必要があります。

③ めざす児童生徒像

- ・ 自分の興味・関心や強みを生かしながら、進んで学習活動に参加している。
- ・ 自分に合った学び方を選択・決定し、自己調整を図りながら粘り強く学習に取り組んでいる。
- ・ 互いを認め合える学習集団の中で、多様な他者と協働し、関わり合い・学び合いながら学習に取り組んでいる。

④ 推進項目

- ・ ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり
- ・ 一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導の工夫

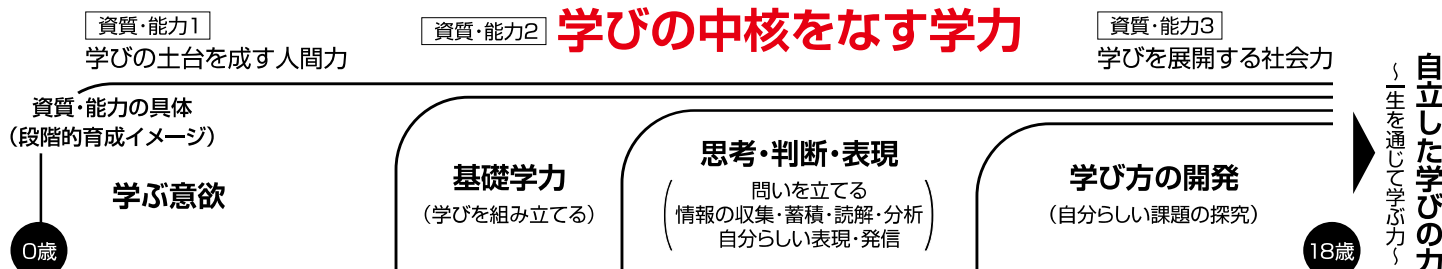
児童生徒の変容をとらえる視点

- 学習への参加状況
例) 学び方の選択・決定の姿、問題発見・解決に向かう姿勢 等
- 全国学力・学習状況調査の無解答状況
・ どのような問題の趣旨、形式(選択・短答・記述など)か、何問題で生じているか。
- 全国学力・学習状況調査の児童生徒質問項目
・ 中学校1、2年のとき(小学校5年生まで)に受けた授業は、自分に合った教え方・教材・学習時間などになっていましたか。

第2期しまねの学力育成推進プラン 令和7年度 重点アクション

第2期しまねの学力育成推進プランで、年度毎に示す重点アクションを参考に、学校の実態に応じた取組を推進してください。

しまね教育振興ビジョン



子どもが「できた・わかった・やってみたい」を実感できる授業づくり

目標	推進項目(◎:令和7年度 重点アクションとの関連)
1 基礎学力を育成する授業づくりの推進	・「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善 ・めあてと振り返りを大切に授業の推進 ・学習する意義や必要性などを実感できる場面の設定 ・全国学力・学習状況調査結果を踏まえた授業改善と改善状況の検証(◎)
2 学習習慣の基盤を育む授業づくりの推進	・問題発見・解決能力を育む授業の推進(◎) ・授業の学びと家庭学習をつなぐ工夫
3 幼小中高の学びをつなぐ保育・授業づくりの推進	・子どもたちが、探究の過程を通して自ら学びを深めていこうとする力を育てる授業づくり(◎) ・それぞれの学校種間での学びの連続性・発展性をふまえ、学びの積み重ねを意識した授業づくり
4 ICTを効果的に活用した授業づくりの推進	・児童生徒が一人一台端末等を学びに生かすことができる授業づくり ・教職員のICT活用指導力の向上(◎)
5 多様な子どもの主体的な学びを支える授業づくりの推進	・ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり ・一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導の工夫(◎)

めざす授業

アクション① 問題発見・解決能力を育む授業

全ての教科で大切にしたい学びの過程

- ① 「問い」をもつ
- ② 課題の設定
- ③ 課題の追究
- ④ まとめ・表現
- ⑤ 取組の振り返り・価値づけ

●「問い」をもつとは

学習の中で、疑問に思うことや知りたいことなどを自分自身で発見し、言葉で表現することです。「問い」をもつことで、児童生徒は自分の興味や関心に気づいたり、明らかにしたいことを見つけたりすることができます。

例)「この現象は地球にどんな影響を与えるのかな?」(理科)

「楽しい感じを出すために工夫ができないかな?」(音楽)

「相手にもっと伝わりやすい言い方はないかな?」(英語)

●課題の設定

課題の設定とは、「問い」を解決していくために具体的に取組むべきことを明らかにすることです。

例)「まずは、10年間の温度の変化を調べてみよう。」

「同じリズムが続くから、細かいリズムも入れて試してみよう。」

「より伝わりやすい言い方を考え、友達と練習してみよう。」

【児童生徒の学びの姿】

- ・物事に自ら関わり、「問い」をもつ。
- ・解決方法を探し、追究のステップを計画する。
- ・知っていること・できることを活用しながら課題解決をし、表現する。(時にひとりで、時に仲間と)
- ・取組を振り返り、新たな問題を発見する。

【授業の工夫】

- ・児童生徒が「問い」をもつことができるテーマ・教材・授業展開・発問等の工夫

「*「問い」のパターンや「考えるための技法」を活用しながら、「問い」をもつためのヒントを提示する

*知っていることの「すれ」「隔たり」を感じさせる

*対象への「あこがれ」「可能性」を感じさせる

*自分や友達への「期待」を感じさせる

- ・「『学びの過程』を学ぶ単元」と「獲得した『学びの過程』を活用する単元」を意識し、重点化して実践

- ・児童生徒が学習の「学びの過程」に活用可能な知識・技能を保障

【「大切にしたい学びの過程」を活用する場面の工夫】

「大切にしたい学びの過程」が、自分の生活や地域社会の課題解決等、様々な場面で活用できるという気づきが、自ら学びを深めていく楽しさや「もっとやってみたい」という児童生徒の思いを育てます。幼・小・中・高校を通して、「大切にしたい学びの過程」を活用する学習場面や経験の積み重ねを意識することで、児童生徒に「自立した学びの力」を育てます。

各教科で 学校行事で 児童会・生徒会活動で
遊びで(幼児教育施設) 学級活動で 部活動で
総合的な学習(探究)の時間で 家庭学習で

- ・児童生徒が自分で「学びの過程」を活用できるようにするために
 - *児童生徒が「なぜ」「どうして」を安心して話せる雰囲気づくりを大切にする。
 - *児童生徒が様々な場面で「なぜ」「どうして」と問いかける習慣づけを大切にする。

アクション②

全国学力・学習状況調査を活用した授業改善

1. 全教員で問題を解く
全教員で全国学力・学習状況調査の問題を解き、各問のポイントや求められる力を共有する。
2. 結果分析と課題特定
自校の調査結果の解答類型から児童生徒のつまずきの要因を把握し、改善が必要な単元や重点課題を特定する。
3. 改善内容と方針の協議
改善内容、児童生徒の具体的な変化の姿、具体的な評価(方法・時期など)を協議し、自校の取組方針を決定する。
4. 授業の実施
協議で構想した改善内容を基に授業を実施する。
5. 改善状況の検証
児童生徒の変容を具体的な評価問題等を用いて検証する。

アクション④

子どもが自分に合った学び方を選択できる授業づくり

学び方や理解の仕方、発達の状況には個人差があることを踏まえ、学習者の視点に立った授業づくりを行う。

【学習者の視点に立った授業の例】

- ・ 子どもの発言や表現の様子、成果物や各種調査等を通して、多面的多角的に実態把握を行う。
 - ・ 学習指導要領の各教科等解説「困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫」等を意識する。
 - ・ 子どもが自ら教材・方法・学習進度等を選択できる学習環境をデザインする。
- 例) 多様な方法を認める風土づくり
学習者用デジタル教科書、音声教材、ICTの活用、ワークシートなどの工夫
学習集団や場所、時間の柔軟な設定 など

教育センター研修等を生かす

- 【1135】通常の学級における多様な学びを支える基礎講座 他
【特支課】LDのある子どもの多様な学び推進事業(オンデマンド)

アクション③

ICT活用指導力向上に係る研修での学びを生かした授業づくり

- ・ 県教委が実施する能力開発研修・経験年数に応じた研修・出前講座、校内研修等で習得したICT活用の知識やスキルを、授業づくりに活用する。
- ・ ICT活用を推進するリーダー教員のための研修における学びを、校内に普及する。

【授業におけるICT活用例】

- ① 考えを共有したり比べたりする場面を設定する。
- ② 考えをまとめ、発表・表現する場面を設定する。
- ③ ①②の場面を中心に、一人一台端末やクラウド上のソフトウェアを活用する。

例) 汎用クラウドツールを活用した情報のやり取り



参考「情報活用能力育成の目安」(EIOS より)

教育センター研修等を生かす

- 【1332】校内の情報化を進めたい教員のためのICT活用推進実践講座
【1268】ICT活用推進リーダー研修
【1287】クラウドの強みを生かした授業デザイン講座
【1291】授業で育み活かす!子どもの情報活用能力育成講座
【1289】AI時代の教育情報セキュリティ講座 他

教育センター研修活用のススメ

「できた・わかった・やってみたい」を実感できる授業づくりを進めるために、教職員研修を活用してください。

県教育委員会が実施する教職員研修のうち「能力開発研修」(全150講座)は、教職員が自発的に参加し資質能力の向上を図る研修です。実施日の2か月前まで申し込むことができます。

二次元コードから一覧をダウンロードできます。



重点アクションの評価参考指標と目標

アクション	評価参考指標		目標
アクション1	授業では、児童生徒が自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っている	全国学力・学習状況調査	令和8年度の肯定的回答割合が、令和7年度比増 (アクション1~4) 平均正答率が全国値以上 (アクション2)
	小中義:総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査	
	高:地域社会の魅力や課題について、自主的にテーマを設定し、フィールドワーク等を行いなから調べ、考える学習活動に対して、熱心に取り組んでいると思う生徒の割合	高校魅力化評価システムアンケート	
アクション2	・全国学力・学習状況調査質問調査 ①国語、算数・数学の授業の内容はよく分かると思う児童生徒の割合 ②国語、算数・数学の勉強は好きだと思う児童生徒の割合 ・全国学力・学習状況調査の平均正答率(国語、算数・数学) ・全教員で問題を解き、各問のポイントや求められる力を共有した学校の割合[取組指標]	全国学力・学習状況調査	
アクション3	学習の中でICT機器を活用することについて ・友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると思う児童生徒の割合 ・自分の考えや意見をわかりやすく伝えることができると思う児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査	
アクション4	中学校1、2年生のとき(小学校5年生)までに受けた授業は、自分にあった考え方・教材・学習時間になっていたと思う児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査	